

令和6年8月26日

# 令和6年台風第10号に関する説明

この資料は、8月26日9時現在に入手可能な予測資料を用いて作成した説明資料です。  
最新の気象情報は、気象台ホームページから確認ください。



京都地方気象台

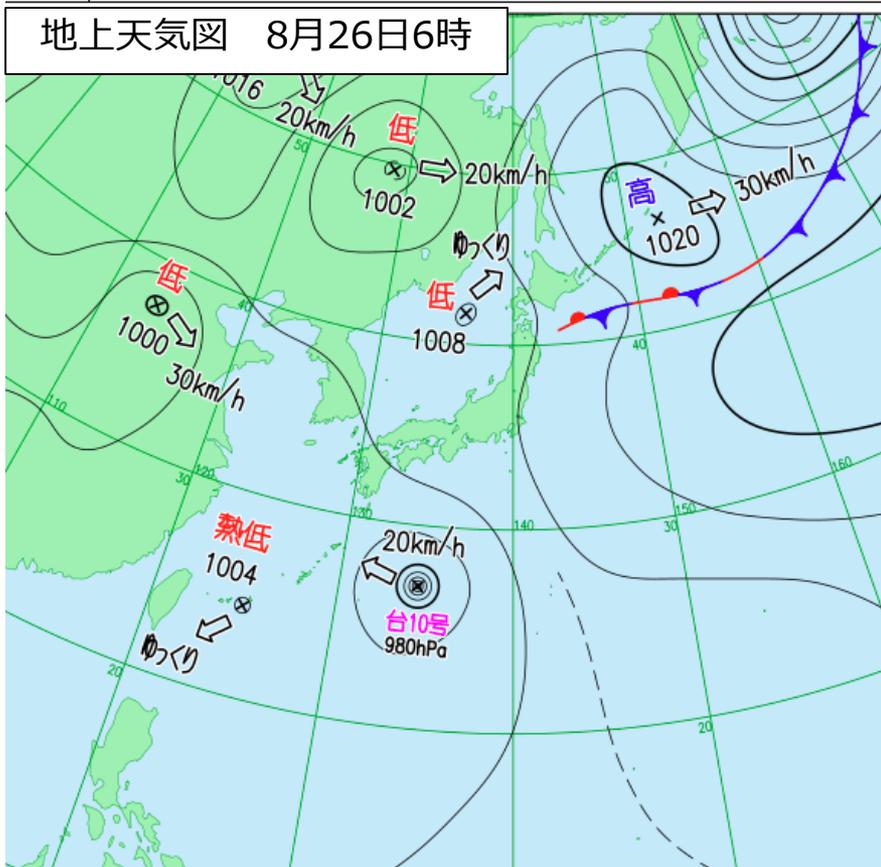
# 台風第10号の進路と影響のポイント

- 強い台風第10号は、26日9時現在、日本の南にあって西北西に進んでいる。今後、台風は日本の南を発達しながら北西に進み、28日以降、近畿地方に接近する見込み。**京都府には30日朝から夕方に最も接近する見込み。**台風の動きが遅いため、影響が長時間におよぶおそれ。
- 29日夕方は強風域に入り、30日朝には暴風域に入る見込み。
- 30日は台風本体の雨雲がかかるため、広範囲で大雨のおそれ。
- 京都府では、これまでの大雨により地盤の緩んでいる所があるため、28日から30日頃は、警報級の大雨の可能性がある。
- 京都府では台風第10号の影響で、**警報級の「風、波、高潮」の可能性もある。**  
29日から30日は大荒れの天気が予想されるため、不要不急の外出は控えて下さい。

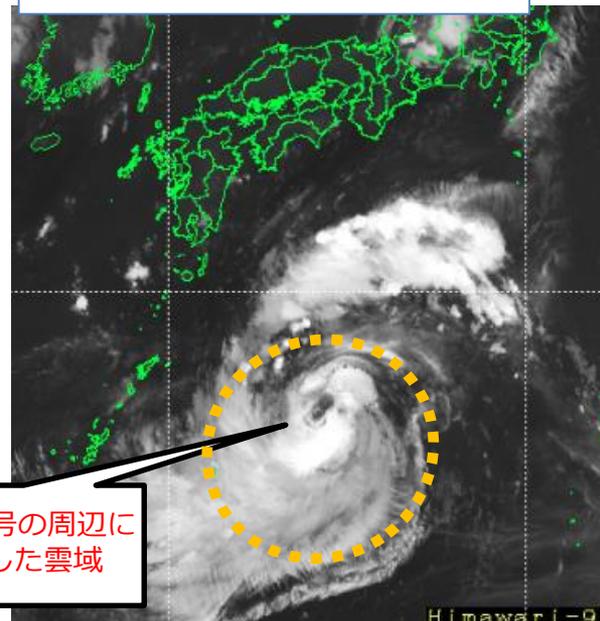
◆ 常に最新の気象情報をご利用ください。

# 26日6時の気圧配置と台風の実況

地上天気図 8月26日6時



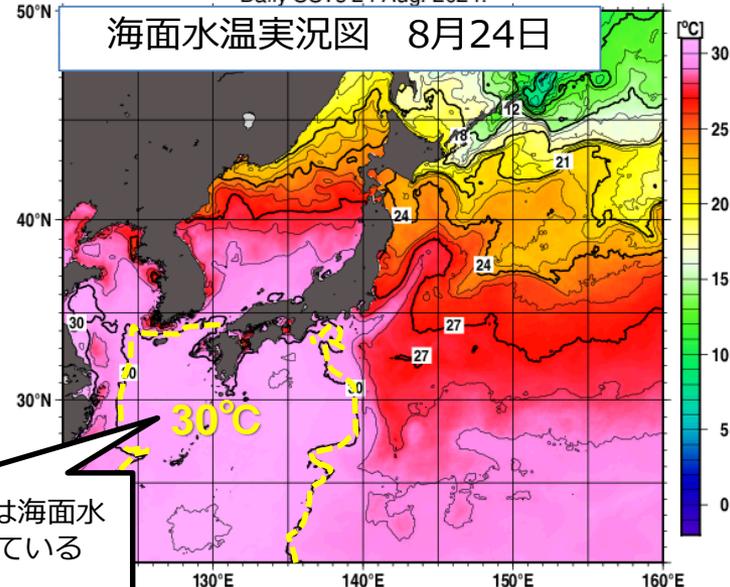
衛星赤外面像 8月26日6時



台風第10号の周辺には発達した雲域

Daily SSTs 24 Aug. 2024.

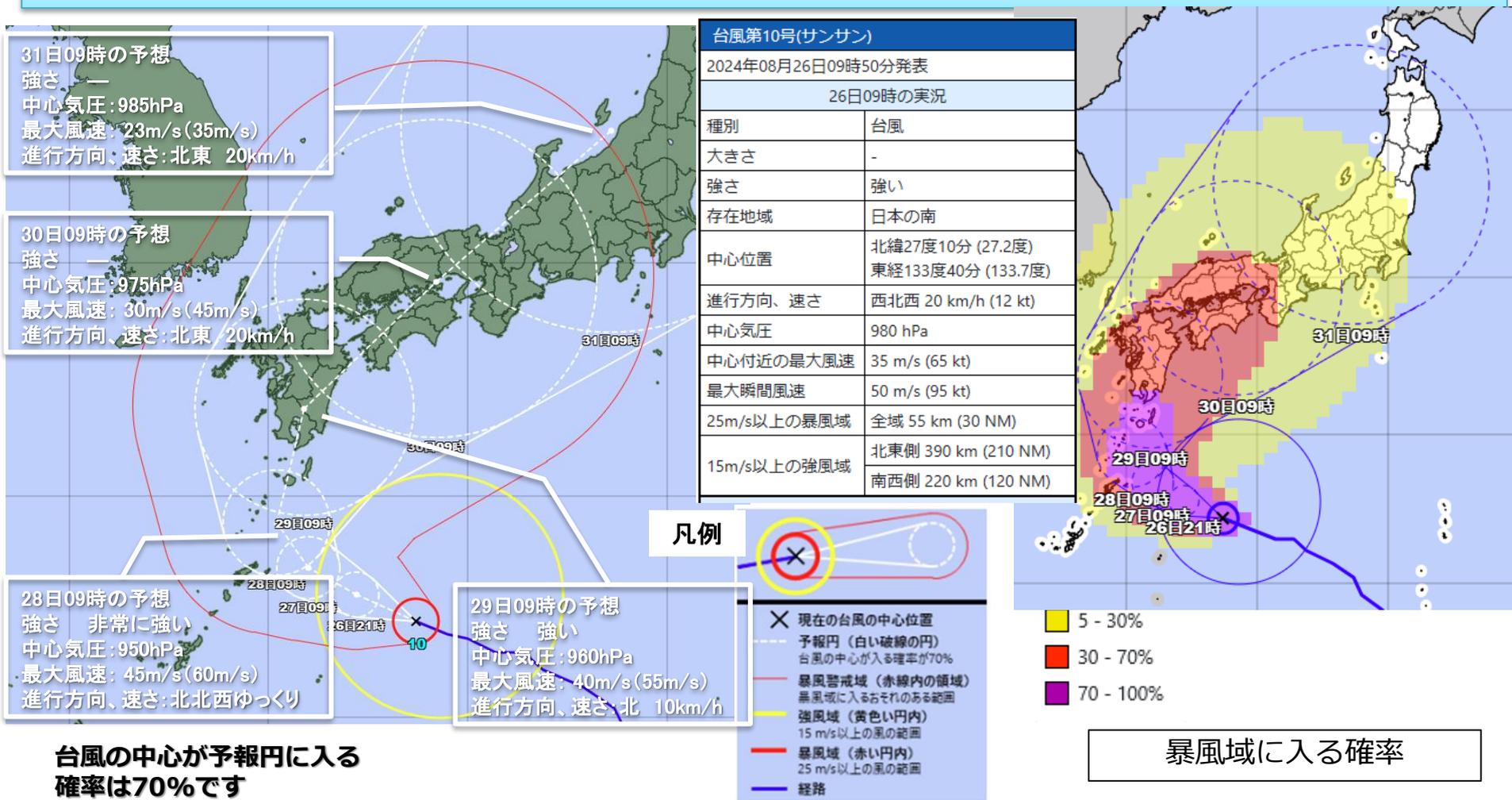
海面水温実況図 8月24日



台風の進路周辺では海面水温30℃以上となっている

- 26日9時現在、強い台風第10号は日本の南にあり1時間におよそ20キロの速さで西北西に進んでいる。台風の周辺には発達した雲域が見られる。
- 台風の進路周辺では海面水温が30℃以上となっており、強い勢力を維持したまま西日本へ接近する見込み。

# 台風第10号 26日9時現在の進路予想（予報円の中心を通った場合）



- ❑ 強い台風第10号は、屋久島付近に進んだ後、次第に進路を北に変えて、暴風域を伴ったまま30日には近畿地方に接近する見込み。
- ❑ 京都府には30日朝から夕方に最も接近する見込み。

# 早期注意情報（警報級の可能性）

## 京都府の早期注意情報（警報級の可能性）

2024年08月26日11時 京都地方気象台 発表

南部では、27日明け方までの期間内に、大雨警報を発表する可能性がある。

北部では、27日明け方までの期間内に、大雨警報を発表する可能性がある。

京都府南部		26日		27日			28日	29日	30日	31日
		12-18	18-24	00-06	06-12	12-24				
大雨	警報級の可能性	[中]	[中]	-			[中]	[中]	[中]	-
	1時間最大	30	30	15以下	15以下	30				
	3時間最大	45	45	25以下	25以下	45				
	24時間最大				50から100					
暴風(雪)	警報級の可能性	-	-	-			-	[中]	[高]	-
	最大風速	9以下	9以下	9以下	9以下	9以下				
京都府北部		26日		27日			28日	29日	30日	31日
		12-18	18-24	00-06	06-12	12-24				
大雨	警報級の可能性	[中]	[中]	-			[中]	[中]	[中]	-
	1時間最大	30	30	15以下	15以下	30				
	3時間最大	45	45	25以下	25以下	45				
	24時間最大				50から100					
暴風(雪)	警報級の可能性	-	-	-			-	[中]	[高]	-
	最大風速	陸上	9以下	9以下	9以下	9以下	9以下			
		海上	10	10	10	10	10			
波浪	警報級の可能性	-	-	-			-	-	[中]	-
	波高	1	1	1	1	1				
高潮	警報級の可能性	-	-	-			-	-	[中]	-

凡例 ■ [高] ■ [中]

# まとめ

**京都府には30日朝から夕方に最も接近する見込み。**

## ■風

29日夕方には強風域に入り、30日朝には暴風域に入る見込み。29日は**暴風警報**を発表する可能性があり、30日は**暴風警報**を発表する可能性が高い。

## ■雨

28日から29日は大気の状態が不安定となり、30日以降は台風本体の雨雲がかかることや、これまでの大雨により地盤が緩んでいる所があるため、**大雨警報**を発表する可能性がある。

## ■波

30日以降は台風の動向により、**波浪警報**を発表する可能性がある。

## ■高潮

30日以降は台風の動向により、**高潮警報**を発表する可能性がある。

■29日から30日は大荒れの天気となる見込み。不要不急の外出は控えてください。

## 防災事項

- 暴風に警戒。
- 低い土地の浸水、土砂災害、河川の増水、高波、高潮に十分注意。

最大 24時間 降水量	期間	27日12時～28日12時
		北部 60ミリ 南部 60ミリ

最大風速 (最大瞬間 風速)	期間		29日以降
	北部	陸上	警報級の可能性
		海上	警報級の可能性
南部		警報級の可能性	

波(最大)	期間	30日以降
	北部	警報級の可能性

潮位(最大)	期間	30日以降
	北部	警報級の可能性

# 參考資料

# 雨の強さと降り方

## 雨の強さと降り方

(平成12年8月作成)、(平成14年1月一部改正)、(平成29年3月一部改正)、(平成29年9月一部改正)

時間雨量(mm)	予報用語	人の受けるイメージ	人への影響	屋内 (木造住宅を想定)	屋外の様子	車に乗っていて
10以上～20未満	やや強い雨	ザーザーと降る	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	雨の音で話し声が良く聞き取れない	地面一面に水たまりができる	ワイパーを速くしても見づらい
20以上～30未満	強い雨	どしゃ降り				
30以上～50未満	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る	傘をさしていてもぬれる	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく	道路が川のようになる	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる(ハイドロプレーニング現象)
50以上～80未満	非常に激しい雨	滝のように降る(ゴーゴーと降り続く)	傘は全く役に立たなくなる		水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	車の運転は危険
80以上～	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じず				

・(注1) 大雨によって災害が起こるおそれのあるときは大雨注意報や洪水注意報を、重大な災害が起こるおそれのあるときは大雨警報や洪水警報を、さらに重大な災害が起こるおそれが著しく大きいときは大雨特別警報を発表して警戒や注意を呼びかけます。なお、警報や注意報の基準は地域によって異なります。

・(注2) 数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を観測・解析したときには記録的短時間大雨情報を発表します。この情報が発表されたときは、お住まいの地域で、土砂災害や浸水害、中小河川の洪水害の発生につながるような猛烈な雨が降っていることを意味しています。なお、情報の基準は地域によって異なります。

# 風の強さと吹き方

## 風の強さと吹き方

(平成12年8月作成)、(平成14年1月一部改正)、(平成19年4月一部改正)、(平成25年3月一部改正)、(平成29年9月一部改正)

風の強さ (予報用語)	平均風速 (m/s)	およその時速	速さの目安	人への影響	屋外・樹木の様子	走行中の車	建造物	およその瞬間風速 (m/s)
やや強い風	10以上 15未満	～50km	一般道路 の自動車	風に向かって歩きにくくなる。 傘がさせない。	樹木全体が揺れ始める。 電線が揺れ始める。	道路の吹流しの角度が水平になり、 高速運転中では横風に流される感覚を受ける。	樋(とい)が揺れ始める。	20
強い風	15以上 20未満	～70km		風に向かって歩けなくなり、 転倒する人も出る。 高所での作業はきわめて危険。	電線が鳴り始める。 看板やトタン板が外れ始める。	高速運転中では、横風に流される 感覚が大きくなる。	屋根瓦・屋根葺材がはがれるものがある。 雨戸やシャッターが揺れる。	
非常に強い風	20以上 25未満	～90km	高速道路 の自動車	何かにつかまっていなくて 立ってられない。 飛来物によって負傷するおそれがある。	細い木の幹が折れたり、根の張っていない木が倒れ始める。 看板が落下・飛散する。 道路標識が傾く。	通常で運転するのが困難になる。	屋根瓦・屋根葺材が飛散するものがある。 固定されていないプレハブ小屋が移動、 転倒する。 ビニールハウスのフィルム(被覆材)が 広範囲に破れる。	40
	25以上 30未満	～110km					固定の不十分な金属屋根の葺材がめく れる。 養生の不十分な仮設足場が崩落する。	
猛烈な風	30以上 35未満	～125km	特急電車	屋外での行動は極めて危険。	多くの樹木が倒れる。 電柱や街灯で倒れるものがある。 ブロック壁で倒壊するものがある。	走行中のトラックが横転する。	外装材が広範囲にわたって飛散し、 下地材が露出するものがある。	60
	35以上 40未満	～140km					住家で倒壊するものがある。 鉄骨構造物で変形するものがある。	
	40以上	140km～						

(注1) 強風によって災害が起こるおそれのあるときは強風注意報を、暴風によって重大な災害が発生するおそれのあるときは暴風警報を、さらに重大な災害が起こるおそれが著しく大きいときは暴風特別警報を発表して警戒や注意を呼びかけます。なお、警報や注意報の基準は地域によって異なります。

(注2) 平均風速は10分間の平均、瞬間風速は3秒間の平均です。風の吹き方は絶えず強弱の変動があり、瞬間風速は平均風速の1.5倍程度になることが多いですが、大気の状態が不安定な場合等は3倍以上になることがあります。

(注3) この表を使用される際は、以下の点にご注意下さい。

1. 風速は地形や周りの建物などに影響されますので、その場所での風速は近くにある観測所の値と大きく異なることがあります。
2. 風速が同じであっても、対象となる建物、構造物の状態や風の吹き方によって被害が異なる場合があります。この表では、ある風速が観測された際に、通常発生する現象や被害を記述していますので、これより大きな被害が発生したり、逆に小さな被害にとどまる場合もあります。
3. 人や物への影響は日本風工学会の「瞬間風速と人や街の様子との関係」を参考に作成しています。今後、表現など実状と合わなくなった場合には内容を変更することがあります。

# 段階的に発表される防災気象情報の活用例

## 5段階の警戒レベルと防災気象情報

気象状況	気象庁等の情報	市町村の対応	住民がとるべき行動	警戒レベル	
数十年に一度の大雨	大雨特別警報 災害切迫 氾濫発生情報	緊急安全確保 ※必ず発令される情報ではない	命の危険 直ちに安全確保！ ・すでに安全な避難ができず、命が危険な状況。いまいる場所よりも安全な場所へ直ちに移動等する。	5	
<b>&lt;警戒レベル4までに必ず避難！&gt;</b>					
大雨の数時間～2時間程度前	土砂災害警戒情報 高潮警報 高潮特別警報	危険 氾濫危険情報	避難指示 第4次防災体制 (災害対策本部設置)	危険な場所から全員避難 ・台風などにより暴風が予想される場合は、暴風が吹き始める前に避難を完了しておく。	4
大雨の半日～数時間前	※大雨警報に切り替える可能性が高い注意報 大雨警報 洪水警報 高潮警報に切り替える可能性が高い注意報	警戒 氾濫警戒情報	高齢者等避難 第3次防災体制 (避難指示の発令を判断できる体制)	危険な場所から高齢者等は避難 ・高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難する。	3
大雨の数日～約1日前	大雨警報に切り替える可能性が高い注意報 大雨注意報 洪水注意報 高潮注意報	注意 氾濫注意情報	第2次防災体制 (高齢者等避難の発令を判断できる体制) 第1次防災体制 (連絡要員を配置)	自らの避難行動を確認 ・ハザードマップ等により、自宅等の災害リスクを再確認するとともに、避難情報の把握手段を再確認するなど。	2
	早期注意情報 (警報級の可能性)		心構えを一段高める 職員との連絡体制を確認	災害への心構えを高める	1

※ 夜間～翌日早朝に大雨警報(土砂災害)に切り替える可能性が高い注意報は、警戒レベル3(高齢者等避難)に相当します。

「避難情報に関するガイドライン」(内閣府)に基づき気象庁において作成